

# 「徳川みらい学会」発足

## 県内外の研究者参集

### 家康の魅力を再考

徳川時代の歴史的意義などを県内外へ発信する「徳川みらい学会」が18日発足し、設立総会と第1回の講演会を静岡市葵区の市民文化会館で開いた。徳川家康の没後400年(2015年)に合わせ県内外の研究者らが集い、徳川家康の魅力などを再考する。

総会では、設立発起人 商工会議所会頭が「皆が世界に誇る財産を発信したい」とあいさつした。会長に就任した



県立美術館の芳賀徹館長は「家康がどのように平和な社会を作り上げたかは非常に興味深い。彼の偉業を見直すことで、日本の豊かさがあったため明らかになってくるはず」と期待を寄せた。

初の講演会は「家康公への思い」をテーマに、6人の講師がそれぞれの「家康論」を展開した。芸術や外交など多様な分野から徳川時代を回顧し、約80

徳川時代の歴史的意義などの発信を目指す「徳川みらい学会」の第1回講演会。静岡市葵区の市民文化会館

0人の会員が活発な議論に聞き入った。学会は学識経験者らを講師に迎えた年6回の講演会や徳川ゆかりの地を巡るツアーなどを予定している。18日現在の会員は法人106社、個人550人。